



# 医療連携だより

公立置賜総合病院医療連携・相談室 電話0238-46-5000 内線1902, 1409

## 特集:

消化器疾患と  
病診連携

診療部長

齋藤孝治

・・・1

形成外科の紹介  
紹介・逆紹介件数

・・・2

登録医総会の  
開催報告

・・・3

当院への紹介方法  
医療連携・相談室ス  
タッフ紹介

・・・4

## 消化器疾患と病診連携

診療部長 齋藤 孝治

病院・診療所の先生方には、日頃多数の消化器疾患の患者さんをご紹介していただき有り難うございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

当科での病診連携の一例として、C型慢性肝炎治療について紹介させていただきます。日本では、肝細胞癌の約20%がB型肝炎ウイルス、約70%がC型肝炎ウイルス(HCV)の持続感染に起因しています。特にHCVに感染すると、60~80%が慢性肝炎に移行し、適切な治療をしなければ、多くの患者さんが肝硬変、肝臓に進行してし

まいます。現在、国内のHCV感染者数は約190万~230万人と推計されています。



厚生労働省は、08年

度から「肝炎治療7ヵ年計画」を施行し、感染者の早期発見・治療による肝硬変・肝臓の進行抑制に取り組んでいます。対策の柱となっているのが、患者さんへのインターフェロン(IFN)治療の医療費助

成や、各都道府県での診断・治療・情報提供などの拠点となる肝疾患診療連携拠点病院の整備、肝炎治療ネットワークづくりです。2010年度診療報酬改定で、肝疾患の専門医療機関での診断・治療計画などを評価する「肝炎インターフェロン治療計画料」と連携医療機関での「肝炎インターフェロン治療連携加算」が新設されました。国を挙げてウイルス肝炎対策、地域医療連携が進められています。

当科での連携パスは、患者さんの当院への通院負担を軽減するとともに、かかりつけの先生が簡便に副作用をチェックできる、ということに重点を置いて作成・運用しています。IFN療法は、副作用

もあり、薬剤の減量・中止基準も厳密で検査項目も多いという課題があります。一方で、治療効果を上げるには、副作用をコントロールして長期間に及ぶ治療を完遂することが重要です。患者さんが受診先で携帯したパスに記入してもらう方式ですが、患者さん自身が専門医やかかりつけ医と情報を共有し合うことで、安心感と治療に対するアドヒアランス向上がもたらされているようです。

今後、連携パスの運用上の課題・問題点を明らかにし、患者さんの利便性に配慮した効率的な医療を提供できるよう病診連携を促進したいと考えております。ご指導とご協力のほど、宜しく願い申し上げます。

## 形成外科について

山形大学医学部付属病院 形成外科  
診療医長 菊地 憲明

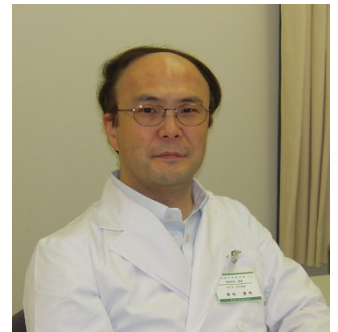
5月より置賜総合病院にて毎週木曜日の午前、形成外科の診療を始めさせていただきました。

整形外科と形成外科、美容整形と形成外科と呼び名も紛らわしく、形成外科の実際の診療内容については医療従事者での混乱がみられます。整形外科は骨・関節の病気やケガを専門とし、運動に関係する科です。美容整形は正常な体に外科治療を加えて見た目を良くする科です。

形成外科の第一目標は出来てしまったケガのキズ痕や外科手術後のキズ痕をきれいにし、また、形成外科で行う外科治療のキズもきれいにしていくことです。体の同じ場所の同じような出来物を切除しても、形成外科ではキズ痕がより目立たない技術を駆使して行います。もうひとつの目標は、悪い出来物を外科治療してとった後、手術前の状態により近い状態にして、日常生活に支障が少ないようにお手伝いをすることです。これによって担当する外科系の診療科の先生方の高い技術が発揮されるように、形成外科が協力させてもらっています。↑

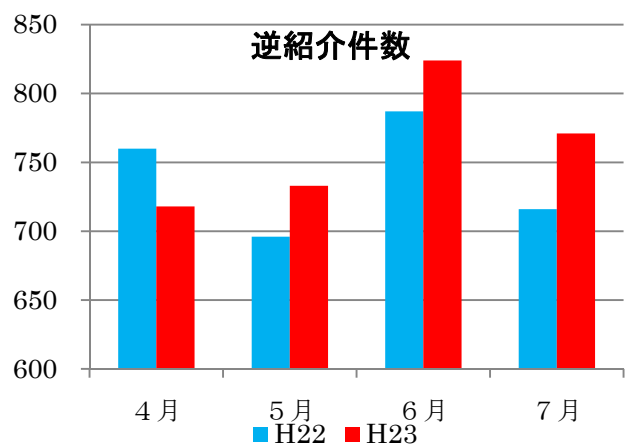
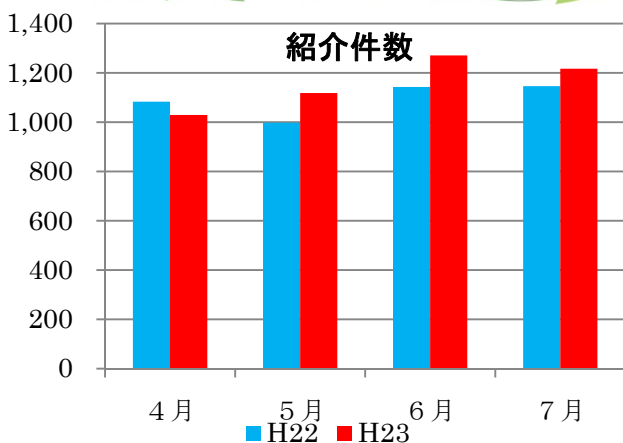


例えば、舌の悪い出来物があり、舌を半分からほぼ全部切除しなければいけない場合、形成外科が患者様ご自身の腕、腹や大腿などから血管を付けた皮膚や皮膚と筋肉を使って、首の血管に顕微鏡を使いながら血管を縫いつけて、皮膚や皮膚と筋で舌を作るのです。これによって手術後口から食べ物が摂れるのです。このような血管を扱う技術をマイクロサージャリーと言います。この技術によって外科系の先生方は悪い出来物を大きく取り去ることができるのです。また、形成外科では生まれつきの外表異常の治療も行っております。生まれつきのアザや、口唇裂や手足の異常などです。口唇・口蓋裂に関しては形成外科、歯科口腔外科、矯正歯科の先生方と連携して一貫したチーム医療が可能です。



患者様で、キズ痕、お子様の体のこと、乳癌後の再建、瞼のことなどご心配事があるようでしたら、お気軽に形成外科にご紹介下さい。

## 紹介・逆紹介件数



昨年度は、地域の先生方のご協力をいただき、【紹介率:60%】【逆紹介率:30%】を超え、“地域医療支援病院”の申請準備が可能となりました。

今年度は、紹介予約の簡易化や医療機器の共同利用など、地域の中核病院としてより一層の努力をして参りますので、今後とも地域連携にご協力をお願い致します。

## 登録医総会の開催報告

去る7月23日(土)午後4時から公立置賜総合病院大研修室で、「平成23年度登録医総会」を開催し、主に下記2点について講演及びご協議いただきました。院内外から約50名のご参加をいただき、感謝申し上げます。

### OKI-netの運用開始について

**OKI-net**は、置賜地域内の複数医療機関の医療情報（電子カルテ）を共有化することで、患者さんに対して切れ目のない医療サービスを提供できるものです。

#### ◆利用施設数◆

情報開示施設：公立置賜総合・長井・南陽病院、川西・飯豊診療所

H23年度中に、①米沢市立病院②三友堂病院③小国町立病院の医療情報も参照可能となります。（右図参照）

参照施設：20施設(8/9時点)

#### ◆参照申請方法◆

利用申請書を協議会事務局（当院）までFAX願います。

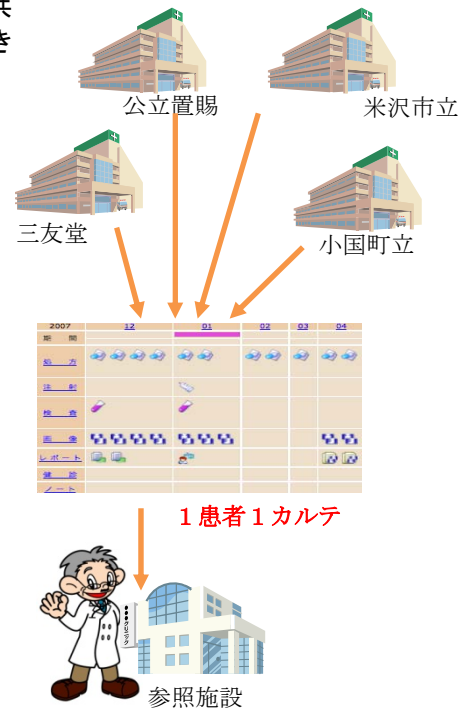
#### ◆運用方法◆

患者さんから同意を取得し、情報開示病院にFAX願います。

#### ◆今後◆

各種連携パスへの応用や、全県（山大等）での運用を検討中です。

詳細は事務局までお問合せ下さい。



### 医療連携登録医制度について

当院は、地域医療支援病院(申請準備中)として、地域医療のために先生方や医療従事者の方に当院を有効活用していただくべく、現行の登録医制度を見直すこととさせていただきます。主な変更点は下記3点となります。

#### ◆紹介入院患者共同診療体制◆

退院後の診療に役立てていただくため、当院主治医と共同で入院した紹介患者さんの診療をすることが可能となります。

#### ◆医療機器共同利用制度◆

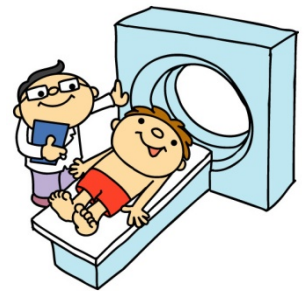
登録医として、当院担当医と共同で紹介患者さんの検査をすることが可能です。

CT/MRI等の検査紹介は従来通りです。

#### ◆研究及び研修部門利用制度◆

相互研鑽のため、当院で開催する医療従事者向けの研修会を登録医にも開放し、今後案内を行っていきます。

今回の制度見直しにより、改めて登録医としての再申請をお願いしております。まだ未提出の方は早目のご提出をお願い致します。



公立置賜総合病院

〒992-0601  
山形県東置賜郡川西町  
大字西大塚 2000 番地

TEL :  
0238-46-5000

予約センターTEL :  
0238-46-5700

FAX:  
0238-46-5721

E-MAIL:  
renkei@okitama-hp.or.jp

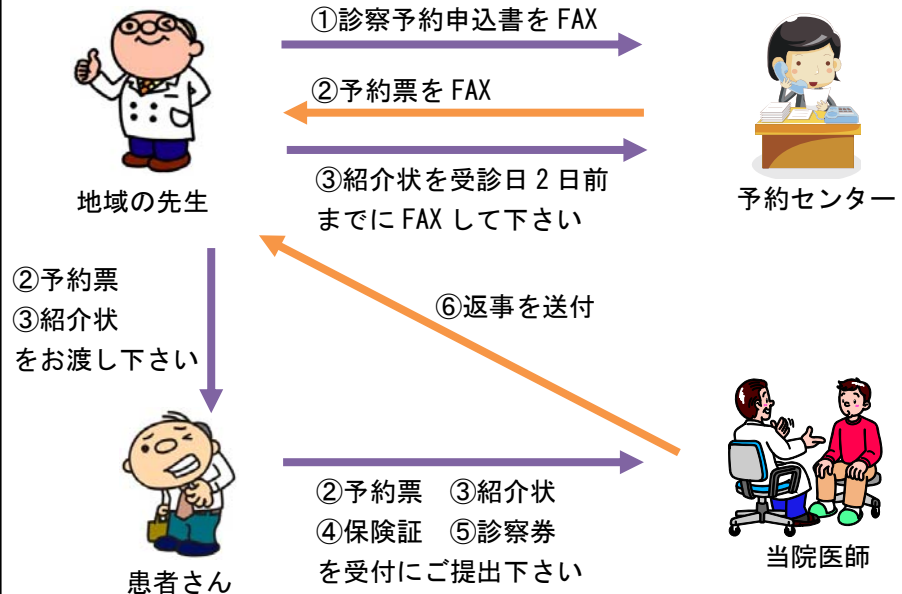
病院理念  
心かよう信頼と安心の病院

置賜広域病院組合  
公立置賜総合病院  
www.okitama-hp.or.jp

## 当院への紹介方法について

### 1. 通常の見介方法

地域の医療機関の皆さまからの紹介予約（診察・検査）は予約センターでお受けしております。（TEL:0238:46-5700、FAX:0238-46-5722）



予約なしで患者さんが受診された場合、長時間お待たせすることもありますので、**事前予約**をお願い致します。

### 2. 緊急に診察が必要な場合

緊急に診療が必要と診断された場合は、時間に関わらず救命救急センターに直接ご連絡下さい。（TEL:0238:46-5800、FAX:0238-46-5801）

今まで、当日 11:30 までの救急紹介は外来を通すことになっておりましたが、今回からこの運用はなくなりました。

## 平成23年度医療連携・相談室スタッフ紹介

平成 22 年度、平成 23 年度の人事異動と昨年度からの予約センターの増設に伴い、総勢 16 名のスタッフにより業務を進めております。

【主な業務内容】：地域連携（紹介予約・連携パス等）、退院支援調整、相談支援センター業務、出前研修会等

2 年前に比べ多くの職員が新規配属のスタッフでございますが、その分フレッシュに活動して参りますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

上写真：前列左から、鈴木主幹、山田部長、新澤院長、高石主幹、舟山主査  
後列左から、吉田主事、飯澤専門員（退院支援）、渡邊事務補助員、加藤専門員（地域連携）、島津専門員（医事福祉）

下写真：前列左から、予約センター 川崎、本田、芳賀  
後列左から、予約センター 橋本、高橋、齋藤（恵）、齋藤（明）

